



Thinking ECO

環境レポート 2011
Environmental Report 2011

スウェーデンハウス環境方針

スウェーデンハウスは、環境先進国スウェーデンの住思想を背景に、天然木の香りあふれる家づくり、省エネ・快適性能の追求、住宅の機能と価値の長寿命化、日本の風土への調和と融合を推進します。

これにより生活消費エネルギーの極小化、クリーンエネルギーの効果的な利用、CO₂の長期固定化、森林伐採の長周期化、資源の節約、廃棄物の削減と再利用をはかり、地域と地球全体の環境保全に貢献します。

行動指針

- ① 技術の進歩や環境の変化に対応し、常により環境負荷の小さな家を建てられるように、継続して改善を行っていきます。
- ② 環境関連法規は最低限の基準と考え遵守するとともに、より厳しい自主基準を課して環境保全に努めていきます。
- ③ 環境影響の改善及び汚染防止を目的・目標として活動を展開するとともに、定期的に目的・目標の見直しを行います。
- ④ 環境負荷の小さな家を提供するにあたり、企業活動のあらゆる面でのムダをなくし、資源の有効活用をはかります。
- ⑤ 全社員に対する環境教育を継続して行い環境意識を高めるとともに、協力施工店等に対しても、当社環境方針への理解と協力を要請します。

平成18年7月
スウェーデンハウス株式会社
社長 近藤 征夫

Thinking ECOとは？

“Thinking Eco”とは、環境問題に対する当社の基本的スタンスを表現するものです。スウェーデンハウスでは、創業当初より環境先進国スウェーデンの住思想を背景に日本の気候風土に調和し、かつ技術の進歩や環境の変化に対応させながら、環境への負荷が小さくなるように考えられた住宅を供給してまいりました。その後、ISO14001の認証を全社で取得し、製品である住宅だけでなく企業活動のあらゆる面での環境改善に取り組んでいます。環境目的・目標の選定にあたっては、どのような取り組みが本当の意味で環境改善につながるのか、イメージではなく実質的な環境貢献のために当社ができることは何かということを考え、テーマを決定するよう心がけています。また、実際の取り組みにおいては、社員一人ひとりがそれぞれの立場をふまえて、自分ができること、やるべきことを常に考え、具体的な改善手法に工夫を凝らし、チームワーク重視で活動を展開しています。

環境問題の重要性が日毎高まりを見せるなか、当社はこれからも“Thinking Eco”を合言葉に、環境改善に向けて真摯に粘り強い取り組みを継続してまいります。

2010年度環境改善活動と実績-1

2010年度 スウェーデンハウス環境改善活動 実績

環境目的		環境目標	2010年度の実績	評価
項目	活動内容(到達点)			
資源の有効活用	2012年度 節水シャワーヘッド 採用率 80%	節水シャワーヘッド 採用率 60%	72.4%	
	2012年度 食器洗い機 採用率 90%	食器洗い機 採用率 85%	82.1%	
省エネルギー性能の向上	2012年度 エコキュート及び高効率ガス給湯器 採用率 95%	エコキュート及び高効率ガス給湯器 採用率 85%	87.0%	
	2012年度 LED照明機器 採用率 20%	LED照明機器 採用率 10%	4.3%	
自然エネルギーの有効活用	2012年度 ソーラーシステム 採用率 20%	ソーラーシステム 採用率 10%	7.5%	
環境負荷の小さな住宅スウェーデンハウスを普及する	2012年度までに 28,715棟の普及 (2012年度までに 4,350棟増)	2010年度までに 25,745棟の普及 (2010年度 1,380棟増)	1,291棟	
廃棄物の削減、発生抑制(リデュース)	2014年度までに 床プレカットパネル化率 95%	床プレカットパネル化率 90%	88.2%	
	造作壁パネル化率 80%	造作壁パネル化率 60%	55.8%	
	設備キット化率 95%	設備キット化率 93%	97.6%	
	外装プレカット率 90%	外装プレカット率 80%	70.8%	
産業廃棄物の再利用(リサイクル)	2014年度までに リサイクル 98%	リサイクル 95%	91.9%	

達成 ほぼ達成 未達成

2010年度環境改善活動と実績-2

2010年度の活動を振り返って

2010年度の活動については、達成した項目3、ほぼ達成した項目7、残念ながら未達成となった項目1で終了しました。今後は未達成項目について、しっかりと原因分析を行い、着実な改善に結びつけてまいります。今後とも環境改善活動を通じ、コンプライアンス遵守や適正な業務の遂行について、全従業員への意識の浸透、日常業務レベルでの落とし込みをめざし、より活動を深化させるための社内体制づくりを着実に進めてまいります。

2011年度は東日本大震災の影響で、国から東京電力・東北電力管内における今夏15%の節電が要請され、これに基づくオフィスの電気使用量削減に取り組みました。さらにスウェーデンハウスに暮らすオーナー様に対し、夏場の電力ピーク時間帯の節電対策として、スウェーデンハウスの断熱性能をいかしたエアコン節電術をご提案し、家庭における節電活動にも取り組みました。当社は環境負荷の小さいスウェーデンハウスとともに、環境にやさしい住生活も普及させてまいります。

今後ともご指導ご鞭撻いただきますよう、よろしくお願いいたします。



EMS責任者
取締役執行役員 三谷 澄男

「環境方針」に基づいた、2010年度の活動トピックス

スウェーデンハウスを1,291棟普及しました

これにより、二酸化炭素削減量を推計すると、次世代省エネルギー基準の住宅との比較では年間で約970t-CO₂となります。この差は杉の木約7万本に相当し、将来にわたるCO₂の排出量の累積削減効果を考えるときわめて大きな環境貢献と考えます。

一定の条件(注)で算定した住宅1棟当たりの年間CO₂排出量のシミュレーション(東京地区で試算)

■スウェーデンハウス	2,764kg-CO ₂
■新省エネ住宅	4,028kg-CO ₂
■次世代省エネ住宅	3,516kg-CO ₂

(注)東京に建つ133㎡、4人家族を想定し、冷暖房負荷は熱負荷計算プログラムSMASHにより算出。

建築現場における廃棄物排出量の削減(リデュース)及び再利用(リサイクル)強化を図りました

スウェーデンから輸入する外壁パネルに加え、国内では内部造作や床組みのパネル化を推進。さらなる廃棄物削減に取り組んでいます。また、排出量の約92%についてリサイクル施設への持ち込みを実現しました。

節水設備の採用、メンテナンスに配慮した外装材の採用

深刻化している水不足問題。家庭レベルで取り組める対策方法として、節水型シャワーヘッド・食洗機の採用を実施しました。また、長く快適に住むために、高耐久外装材(外壁材・屋根材)の採用を推進。メンテナンスによる交換を長期化することで、資源の有効活用を図っています。

高効率エネルギー設備の導入

エコキュートや高効率ガス給湯器など、エネルギーを効果的に使用するための設備を積極的に採用。2010年度着工数の約87%に高め、健康で快適な暮らしと環境負荷低減の両立実現を図りました。

資源節約への活動、環境配慮型商品の使用を推進しました

クールビズ/ウォームビズを中心とした節電活動を実施し、オフィスにおける電気使用量の削減を進めました。また、文具の環境配慮型商品の採用は、約95%の採用実績をあげました。

環境関連法規制遵守

当社における法規制の遵守については、遵守手段として法規制等特定規程と法規制等監視規程を定めており、これに基づいて徹底を図っております。2010年度は環境関連法規制に違反する事例は発生しませんでした。今後とも訓練の徹底、結果確認の励行や内部環境監査の実施等を行い、引き続き違反が発生しないように努めて参ります。

対象となる主な法規制

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| ■大気汚染防止法 | ■騒音規制法 | ■振動規制法 |
| ■廃棄物処理法 | ■建設リサイクル法 | ■建築基準法 |
| ■省エネ法 | ■都市緑地法 | ■自然環境保全法 |
| ■自然公園法 | ■フロン回収破壊法 | |

環境に関する外部から当社への苦情と対策

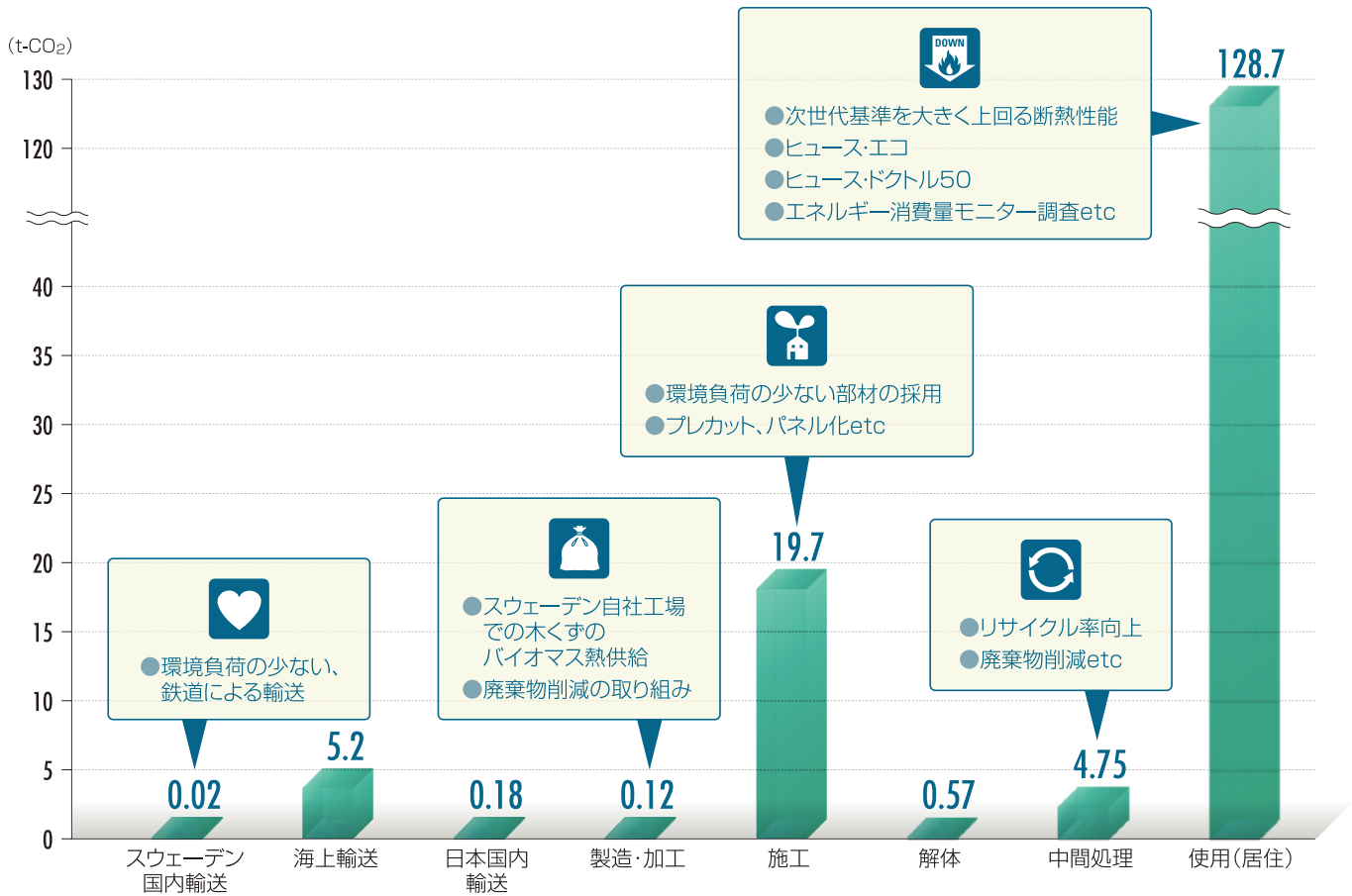
外部コミュニケーション情報の収集については対象を広く捉え、施工現場においては近隣クレーム全般を対象として収集を図っています。2010年度の環境に関する苦情は4件という結果になりました。再発防止策の徹底を行い、同様の苦情が発生しないよう努めていきます。

ライフサイクルアセスメント(LCA)について

スウェーデンハウスでは、住宅の環境負荷を把握するため、積み上げ式でLCAを実施しました。施工部材のうち環境負荷が小さく、CO₂を貯蔵できる木材を非常に多く使用し(床面積当たりで、スウェーデンハウスは約0.23m³/m²、一般的な木造住宅0.19m³/m²※)、さらに木製サッシのガラスをLow-E化するなど、CO₂の削減のため、さまざまなことに取り組んでいます。

※ 一般住宅の木材使用量は日本住宅・木材技術センター2001年による軸組工法の調査値によります。

ライフサイクルにおけるCO₂排出量(50年)



データの算出方法について

対象

標準モデル住宅A邸

スウェーデンハウス施工平均床面積(38坪)よりモデル住宅を選定しました。部材倉庫からの輸送距離は56km(往復)と設定しています。

- 材料の調達から廃棄物中間処理までを含みます。
- 居住は50年とし、居住データはヒュース・エコでのオール電化のシミュレーション結果を用いています(Q値は1.14※としております)。
- 部材は全て重量ベースで素材別に分解し、各々のCO₂原単位を掛けて、CO₂を算出しました(設備機器と外構部材は除きます)。
- スウェーデンの電力、木材、輸送については、CPM(チャルマース工科大学)から購入した原単位データベースを利用しました。
- 輸送の負荷は、全社の輸送負荷÷年間完工棟数として算出しました。施工時のエネルギー量は、車両タイプ別に、総走行距離÷車の燃費として算出しました。
- 解体時の廃棄物量及びエネルギー量は、鎌倉モデルハウスの調査をもとに、換算して用いました。

※ 当社の標準的プランによる